

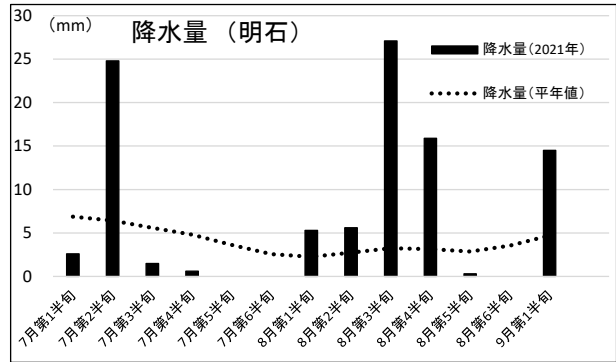
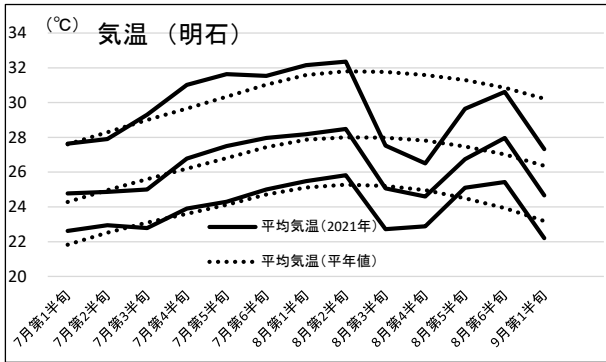
令和3年度 東播磨地域稲作気象台情報 第3号

発行：令和3年9月9日
NOSAIひょうご東播磨事務所

1. 気象状況 (気象庁データ [明石]：7月～9/5)

気温は、8月上旬まで平年よりも高く推移していますが、8月中旬から下旬にかけて著しい低温となりました。

降水量は、梅雨明け以降ほとんどありませんでしたが、8月上旬以降まとまった降雨が続き平年よりも多くなっています。



2. 生育状況 (県立農林水産技術総合センター [加西] の気象感応調査結果：9月2日現在)

品種	調査日	草丈	茎数	葉数	出穂期
キヌヒカリ	8月5日	94cm (平年比101)	360本/m ² (平年比99)	13.3枚 (平年差-0.6)	8月4日 (平年比-2)
ヒノヒカリ	8月25日	92cm (平年比99)	415本/m ² (平年比101)	15.9枚 (平年差-0.4)	—

3. 病害虫発生程度 (東播磨管内13定点ほ場での予察調査結果：9月7日実施)

	本田払い落とし					本田すくい取り				
	ヒメトビウンカ	セジロウンカ	トビイロウンカ	ツマグロヨコバイ	フタオビコヤガ	ヒメトビウンカ	セジロウンカ	トビイロウンカ	ツマグロヨコバイ	カメムシ類
明石・播磨	少	少	無	少	無	中	少	無	無	無
稲美	少	少	無	無	無	多	少	無	少	無
加古川北部	中	少	無	少	無	甚	少	無	少	無
高砂・加古川南部	少	少	無	少	無	中	少	無	少	少

	病害調査						虫害調査 (見取り)				
	葉いもち病	穂いもち病	紋枯病	縞葉枯病	ばか苗病	もみ枯細菌病	稲こうじ病	ニカメイガ	イネミスゾウムシ	イネツトムシ	コブノメイガ
明石・播磨	少	無	少	無	/	無	無	無	/	無	無
稲美	無	無	少	無	/	無	無	無	/	無	無
加古川北部	無	無	少	無	/	無	無	無	/	無	無
高砂・加古川南部	少	無	無	無	/	無	無	無	/	少	無

全般に病害虫の発生は少なかったが、ヒメトビウンカが一部定点で多発していました。

昨年発生が多かったトビイロウンカは今回の定点調査では確認されませんでした。

紋枯病は、4カ所の定点で発生が見られました。

4. 今後の栽培管理について

(1) 病害虫防除

<トビイロウンカ(秋ウンカ)>

ヒノヒカリ等、収穫が10月中旬以降の品種は特に注意が必要です。「坪枯れ」が発生し減収や品質低下につながる恐れがありますので、9月上旬に1株あたり2頭以上いる場合は速やかに防除を実施しましょう。トビイロウンカは主に株元に生息しますので、液剤・粉剤で防除する場合は株元までしっかりかかるよう散布しましょう。粒剤を使用する場合は、散布後、少なくとも数日間は湛水状態を保ちましょう。



<斑点米カメムシ類>

ヒノヒカリなど、これから乳熟期を迎える品種では特に注意が必要です。基幹防除をしていないほ場は早急に実施しましょう。カメムシへの薬剤散布は、ウンカ類やツマグロヨコバイへの防除効果も期待できますので、粉剤等を使用する場合は、株元にまで薬剤がしっかりかかるよう丁寧な散布を心掛けましょう。

<紋枯病>

小判型の病斑が水際に近い葉鞘に現れ、下葉から次第に枯れ上がります。7～8月に発生し、高温多湿条件が長く続くほど発生が多くなります。葉鞘が侵されると倒伏しやすくなり、50%に近い減収となる場合もあります。穂ばらみ期に2割以上の株に発病が見られたら防除しましょう。

<縞葉枯病・ヒメトビウンカ>

近年、ヒメトビウンカが媒介する縞葉枯病の発生が問題となっています。「出すくみ症状」や「ゆうれい症状」のある感染株を見つけたら、株ごと抜き取りほ場外へ持ち出し処分しましょう。また、ウンカの越冬虫を減らすために、稲刈り後は積極的にほ場を耕起しましょう。

<ばか苗病>

ばか苗病は種子伝染性の病害です。胞子は100m程度飛散し、感染した株のもみ殻やワラも感染源になります。発病株の見られたほ場やその周辺ほ場からの自家採種は控え、翌年の種子は更新しましょう。また、ワラなどが残らないよう施設や機械はきれいに清掃し、種籾浸種用の容器、育苗箱、播種機などはしっかり消毒しましょう。

◎**薬剤使用にあたっては、ラベル記載の適正使用基準を遵守し、隣接作物等へのドリフト防止に努めましょう。**

(2) 水管理・刈取り <ヒノヒカリ>

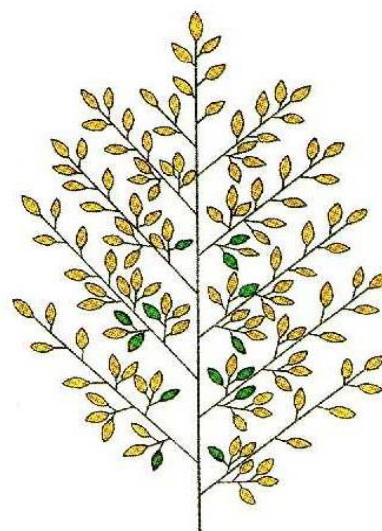
根の活力を維持するため、収穫の1週間から10日前まで間断灌水を継続しましょう。気温が高く、落水時期が早いほど、乳白粒や腹白粒、未熟粒などが増え、整粒歩合が低下する傾向があります。早い時期からの落水を控え、品質低下を避けましょう。落水後に乾燥が続く場合は、走り水を実施しましょう。

出穂後40～45日頃、籾の黄化率(黄色に色づいた籾の割合)が85～90%になった頃が刈り取り時期の目安です。刈り遅れは、胴割れ米や穂発芽の発生、玄米の光沢落ち、茶米の増加の原因となります。ほ場や稲の成熟状況をよく確認し、**適期収穫**に努めましょう。

※兵庫県農業気象技術情報サイトへのアクセス方法

兵庫県ホームページトップ画面より、「食・農林水産」⇒「農業」⇒「農産物」⇒「農業気象技術情報」と進んでください。

もしくは、「農業気象技術情報」で検索して下さい。
http://web.pref.hyogo.lg.jp/nk12/af11_000000097.html



収穫適期(青籾率10%)

発行	: NOSAIひょうご東播磨事務所
調査協力	: JA全農兵庫
支援	: 東播磨農業改良普及事業協議会(構成員: 明石市、加古川市、高砂市、稲美町、播磨町、JAあかし、JA兵庫南、JA加古川南、加古川農業改良普及センター)
お問合せ先	: 加古川農業改良普及センター 地域課 電話(079)421-9354